「それだけはダメ。」

作・平野正喜（ひらのまさき）

20分版

2015・02・04

【登場人物】

平尾明（ひらおあきら）　53歳。中程度の企業の部長。独身。世田谷のワンルームマンションに一人住まい。札幌生まれ。

鈴木小夜（すずきさよ）　21歳。平尾の部署の新入社員。

次藤透（じとうとおる）　53歳。平尾の幼馴染。札幌在住。（声のみ）

倉枕実穂（くらまくらみほ）　53歳。平尾の幼馴染。札幌在住の主婦。（声のみ）

倉枕五月（くらまくらさつき）　37歳。実穂の一人娘。16歳で家出して上京。

※小夜、五月、実穂は一人の女優が演じることが望ましい。

こうすると「劇王」仕様（役者3人以下、20分以内、簡素装置）にあてはまる。

【セットイメージ】

古いワンルームマンションの部屋。

廊下に出るドアがある。

セミダブルのベッドと小さいテーブル、椅子2脚がある。

椅子に男物のスエット上下がかかっている。

テーブルの上に携帯電話。

※ドアは開閉音のみ用いるので舞台上にはなくても良い。

ベッドは白布をかけた平台で足りる。

開幕。

漆黒の闇に平尾（ひらお）の独白。

平尾　夢を見ていた。長い髪の女が俺の前にいた。俺が後ろから抱きしめようとすると、女は「おじーちゃん、だめ」と言って振り向いた。その顔は俺の顔だった。部屋が少し明るくなる。ドアの方から光が差し込んでいる。その先にバスルームがあるようで、シャワーの音が聞こえる。平尾は全裸でベッドに寝ており、シーツをかけられている。

シャワーの蛇口を締める音と、バスルームのドアの開く音がして小夜（さよ）の声が聞こえてくる。姿はまだ見えない。

平尾　ぐあ！（上半身が勢いよく起き上がる）

小夜　ど、どうしたの、部長？

平尾　あ…。すまない、夢、見てた。

平尾は周囲を見回し、次に自分の姿を見て、

平尾　すまん、寝てたのか。

小夜　部長ったら、疲れてた？

あの後、寝ちゃったんだよ。

平尾　あ、ああ、そうらしい。うーん。すまん。

小夜　まあ、いいけど。あ、そうだ、あたし明日から忌引きなのでよろしく。

平尾　ん、ご不幸かい？

小夜　ママのお父さんが札幌にいるんだけど、急に亡くなっちゃったの。脳卒中で。まだ50代だったのにぃ。

平尾　逢ったことないんだけどね。

おやおや、早すぎだよ。ご愁傷様。しかし、50代とは、キミのような大きな孫がいて…

小夜　（さえぎって）ダメ！ちゃんと名前で呼んで。お願

平尾　い。呼び捨てでいいから。

小夜　部長って、誰が相手でもきちんと謝るよね。そういうところソンケーしてるよ。

平尾　え？　あ、そうか、まあ、物心ついてから、50年近く謝ってばっかりの毎日だからなぁ。

小夜　えーと、部長は54？

平尾　まだ、53。小夜は21だっけ？

小夜　そう、32歳の別れ、じゃなくて離れだね。

平尾　古い歌知ってるなあ。

小夜　古くないよ、東京事変の曲だもん。

平尾　あ、ごめん。済まなかった。

平尾は応えずに自分の下半身をまさぐって、

平尾　あ、

小夜　なに？

平尾　アレ、外しといてくれたんだ。

小夜　あ、コンドームね。うん。しぼんで外れてシーツ汚したらイヤでしょ、部長も。

平尾、トランクスを履きながら、

平尾　ああ、ありがとう。

小夜　部長って、絶対にコンドームするよね。あたしが大丈夫な日だと言っても。

平尾　ああ、まあ、そうだな…。そうそう、そろそろウチで部長って呼ぶのはやめてくれないか？

小夜　いいけど、ここでだけ名前で呼んだりしたら、会社で間違って呼びそうでヤバイかも。あたし、これで

平尾　も新入社員だし。

平尾　わはは、そうか…。あれ？

小夜　今度はなに？

平尾　そろそろ時期じゃなかった？

小夜　あ、生理？　ちょっと遅れてるみたい。

小夜、OLの通勤服に着替えて髪を直しながら部屋に入ってくる。

小夜　今日は帰るね。ママが来るし、明日朝、羽田だから準備しなきゃ。

小夜は平尾のほほにキスをして、

平尾　（ちょっと早口で）遅れるのは珍しいんじゃなかったっけ？

小夜　（とぼけて）部長って、東京総務部の女子全員の生理周期覚えてるって奈々子先輩が言ってたけど、ホントみたい。

平尾　（話をそらされたことに気づかず）そこまでじゃないが、何人かは教わってるよ。こっちから頼んだわけじゃないが。

小夜は部屋を出て玄関に向かいながら、

小夜　まあ、重い子は、上司が理解してくれてると助かると思うけど…。でも、考えてみると珍しい上司だね、部長って。じゃ、また来週。

玄関で小夜が靴をはく音が聞こえる

平尾　ああ、また。（思い出してドアに向かって早口で）で、遅れてるって？

小夜　あ、先月だったか、寝てた部長を襲っちゃったからかな。

平尾　え？

平尾はベットから跳ね起きて急いで出口に向かいながら、

平尾　おい、まさか！

小夜　へへへ。じゃね。

玄関のしまる音がする。

平尾　おい！

平尾は部屋を出て小夜を追いかけようとするがトランクス一枚の姿なことに気付き、諦めて部屋中央に戻る。

平尾　やれやれ。

平尾　こんな時間に誰だ。

平尾の携帯電話が鳴る。

平尾　ん？

次藤（じとう）か。

平尾はケータイを持って画面を見て、

受話ボタンを押し、耳にあてると、電話から

次藤の声。

平尾　もしもし。

次藤　（沈痛に）元気かい。

平尾　ああ、どした？　珍しいな。今、札幌か？

次藤　うん。平尾にも知らせた方がいいと思って。倉枕（くらまくら）先

輩が亡くなったよ。

平尾　え？（絶句する）

次藤　やっぱり、知らなかった？

平尾　いつ？

次藤　今朝。脳梗塞（のうこうそく）。誰からか連絡なかったの？

平尾　来るはずがないよ。

次藤　どうするの？　通夜は札幌だけど、来る？

平尾　ごめん、ちょっと考える。

次藤　急なことだし、いろいろあったからね。

平尾　ああ…

次藤　実はね、保雄（やすお）さんから連絡があったときにさ、あ、

保雄さん覚えてる？　先輩の弟の。

平尾　もちろん。昔、いろいろ言われたし。

次藤　うん。で、保雄さんから連絡があったときにね、子

供の頃のことを思い出して、あんなことになった原

因のひとつって、やっぱり僕だったんだろうなぁと

思って。

平尾　あのことか？

次藤　ああ、子供の頃から、平尾とジャレてて、パンツ脱がして、くわえるのが大好きだったこと。

平尾　俺も嫌じゃなかったからなぁ。お前はあの頃からそっちの性（さが）だったし。

次藤　でも、実穂（みほ）の前でもジャレてたのはまずかったと思う。

平尾　3人とも片親で、いつも一緒に宿題やってたからな。

　　うよ。今更。

平尾　ん、キャッチだ。

　　キンコンという電子音がする。

　　仕方ないよ。

平尾　平尾は携帯電話を耳から話して番号を確認して、

次藤　知らない番号からだから、間違い電話だろ。

次藤　あ、ごめん、実穂だと思うので、出てくれるかい。

平尾　え？

次藤　勝手にごめん。今日、実穂から連絡貰った時に、平尾に連絡したいというので、教えちゃった。

平尾　…、そうか。

次藤　たのむよ。

平尾　わかった。そういう日なんだな、今日は。じゃ、話してみるよ。

次藤　宜しくね。

　　平尾は携帯電話を耳から話して、一つため息をついてから終話ボタンを押して、再度耳にあてる。

実穂　平尾くん？

平尾　…（息をのむ）、あ、ああ、久しぶりだね。札幌からい？

実穂　うん。ホントに久しぶり。次藤くんにお願いした時に数えたら37年ぶりだって。ねえ、聞いた？ウチの人のこと。

平尾　次藤から聞いたよ。ごめん、何と言ったら良いのか

わからない。それより、こんな電話してて大丈夫な

の？

実穂　平尾くんって、思ってたより、声が若いんだね。昔

と変わらない。

平尾　身体は老ける一方だけどな。そうそう、周りに家族

とかいるんじゃないのか？

実穂　大丈夫、娘も孫も来るのは明日だし、今、一人だか

ら。

平尾　そっか。

実穂　うん、私の声、覚えてくれた？

平尾　忘れないよ。聞いた瞬間わかった。でも、見かけは

お互いだいぶ変わっちゃったんだろね。

実穂　うん、逢わない方がいいかも。

平尾　ずっと逢いたかったのに。

実穂　私も。ずっと逢いたかったのに。

平尾　急だったの？　倉枕先輩。

実穂　うん、先週までピンピンしたのに、接待ゴルフの最

中に倒れて、そのまま一度も…。

平尾　逢いたかったな。

実穂　うん。時々、平尾くんのこと思い出して心配してた

よ。

平尾　謝りたかったな。

実穂　それは、しないでねって言ったと思う、ウチの人。

平尾　そうか。お前はそう思うんだ。

実穂　だめ！　ちゃんと名前で呼んでね。呼び捨てでいい

から。

平尾　あ、ごめん、昔、そんな約束あったよな。

実穂　覚えてくれたんだ。

平尾　忘れてた。思い出したよ。あ…

実穂　どうしたの？

平尾　あ、ごめん。ちょっとね…。

実穂　私も忘れてたことがたくさんあるし。

平尾　実穂もか。

実穂　うん、でね、今日、久しぶりに次藤くんと話して、

いろいろ思い出したの、そしたら、平尾くんの声が

聞きたくて、聞きたくて、聞きたくて、それしか考

えられなくなっちゃって。

平尾　そうか。なんか、嬉しいな。

実穂　でね、謝りたかったの。

平尾　どうして、逆じゃない？

実穂　だって、寝てた平尾くんを襲ったのは私だもの！

平尾　おい！

実穂　…、言っちゃった。ずっと言えなかったこと。

平尾　それは言っちゃダメだって！

実穂　だって、次藤くんがいつも平尾くんのおチンチンく わえてるの見てたから、

平尾　だからダメだって！

実穂　私だってと思っちゃったんだもの！

平尾　ダメだって！

実穂　大丈夫、眠ってるウチの人以外、誰もいないから。

平尾　おいおい…

実穂　あー、スッキリした。私って変なのかも。性（さが）かな。

平尾　…、先輩は知ってたの？

実穂　最後まで言えなかった。

平尾　そうか…。あの日、次藤が置いてった酒を飲んで、やっぱ、高校生のガキが酒飲んじゃダメだよな。

実穂　寝ちゃった平尾くんが可愛くて、私もちょっと飲んでたから、思わず、しちゃった。

平尾　いまさらだけど、聞いていいか？

実穂　何を？

平尾　あの時、痛くなかったの？

実穂　初めてだったけど、あたし、体操やってたでしょ。いつも股割りしてたせいかな。

平尾　オレのが小ちゃくて細かったからかもな。

実穂　（笑）

平尾　目が覚めたら、実穂が乗っかってて、あそこが暖かくて気持ち良くて、で、その途端に…、ガマンでき なかった。

実穂　…

平尾　怖かったよ、あの頃、毎日。

実穂　ごめんね。

平尾　待っても、待っても、実穂の生理が来なくて、もう ダメだと思ったけど、どうしても堕ろしてって言え なくて、

実穂　ごめんね。あたし、産みたかったんだ。自分の家族

平尾　を。

実穂　実穂のお母さんにバレて、大騒ぎになって、俺が襲

ったことにして、追っ払われて、東京に引っ越して、

か。

実穂　…

平尾　そうだ、娘だっけ、名前は？

実穂　五月（ごがつ）と書いてサツキ。ウチの人と合わなくて。で、

実の父親じゃないことを知っちゃって16で家出し

ちゃった。

平尾　…

実穂　私と同じ16で子供ができて、私にだけ連絡をくれ

るようになったのは割と最近のことなの。

平尾　じゃあ、その子は俺たちの孫なのか。

実穂　そういうこと、私はおばあちゃん、平尾くんはおじ

いちゃんなんだよ。

平尾　ううむ。えーと（年を数える）、その子、もう成人

しているのか！

実穂　うん。ハタチ過ぎ。明日来てくれるので、やっと会

えるの。楽しみなの。ちょっと怖いけど。

平尾　そうか。

実穂　平尾くん、札幌に来てくれないの？

平尾　ごめん。保雄さんもいるし、よした方がいいと思う。

そのうち墓参りに行くよ。実穂と子供を引き受けて

くれた先輩に、ちゃんと詫びないと。

実穂　…

平尾　行く日決めたら電話するよ。この電話番号でいい？

実穂　うん、待ってる。

平尾　じゃ、切るね。

実穂　必ずよ、必ずしてね。お願いだから。お願い、絶対…

（泣き出す）

平尾　ああ。

実穂　ごめんね。ごめんね…。なんでだろ、あの人が逝っ

ちゃった時はこんなに泣かなかったのになぁ。

平尾　ああ…、じゃ、切るね。またね。

実穂　うん。

平尾は電話機を耳から離し、静かに終話ボタ

ンを押す。その途端に呼び出し音が鳴る。画

面を見て、

平尾　ん、小夜？

平尾は息を吐き出して気持ちを落ち着けてから受話ボタンを押す。

平尾（無理に明るく）どうしたの？

小夜　部長ー、ママにばれちゃった。

平尾　え？

小夜　アパートに帰ったら、ママが待ってたんだけど、方、あたしと部長が腕組んで歩いてるとこ見たって

いうの。

平尾　…

小夜　で、不倫じゃないだろねと、問い詰められて、ごまかしてたんだけど、写真見られちゃって。

平尾　上司だって言ったのかい？

小夜　うん、ちゃんと独身だし、トシはすっごく離れてるけど、美雪（みゆき）もあたしもオヤジマニアだしって言ったら、いったん落ち着いたんだけど、

平尾　だけど？

小夜　名前教えろって言われて、部長の名前言ったら、マの顔が真っ赤になって、もんのすごく怒りだしちゃって、

平尾　やって、

小夜　アンタ、なんてことしてくれるのよ！よりによって、

平尾　え？

小夜　こんな男と！とか叫び出して、揚句にアパートから出ていっちゃった。

平尾　な、なんで？

小夜　わかんないよー。ねー部長、私どーすればいいの？

平尾　俺にもわからん。

小夜　（さえぎって）あ、ママからメール来た。え？

とけ、それよりも、

平尾　所の酔っ払いが部屋間違ったんだろ、ほっとけほっ

ん、こんな夜中になんだろ。こないだみたいに、近

ドアホンの音が連続して鳴る。

平尾　どうした？

小夜　ママ、部長の部屋の前にいるって！ドアを開けろっ

　　て部長に伝えてって！でも、

平尾　え、住所も教えたのか？

小夜　教えてないのに！

　　ドアホンの音がまた連続して鳴る。

小夜　部長、ほんとにごめんなさい。ママに逢ってくれる？

平尾　わかったよ。俺の責任もあるし。逢っていいんだな？

小夜　うん、お願い。

平尾　じゃ、切るぞ。

　　平尾は終話ボタンをおすと、椅子に掛けてあったスエット上下を慌ただしく着てドアを出て玄関に向かう。

平尾の声　はいはい、今、開ける。

　　ガチャと鍵を開けドアをあける音がして、玄関から声が聞こえてくる

女の声　アンタね！

平尾の声　鈴木くんのお母さんですか？

女の声　中に入れて！

平尾の声　そうしましょう、近所迷惑だし。

　　ドアを閉める音がした直後に、平手打ちの音と、平尾が壁にぶつかる音がする。

　　平尾が勢いでよろめきながら部屋に入る。

　　後ろから興奮した女が入ってくる。

女　よりによって、小夜の相手がなんでアンタなのよ！

平尾　何を言っているのかわからん！

　　で、どうしてここが？

女　調べたのよ、アンタのことを。

　　そしたら、小夜が！

平尾は体勢を立て直して、女に椅子をすすめる。

平尾　まあ、とにかく、落ち着いてください。

女　落ち着いちゃいられないわよ！

平尾　まあ、とにかく…

女　（少し落ち着いて）分ったわよ。

平尾　何か飲みますか？

女　結構。

平尾　鈴木くんのお母さんですよね？

女　そうよ。倉枕、五月（さつき）。アンタの娘よ！

平尾　え？　ちょ、ちょっと…

五月　（早口でまくしたてて）前からアンタのこと調べてたんだけど、母さんから お父さんが倒れた、意識が戻らないと聞いて、アンタに一言言いたくなっちゃって、探偵やとって、住所がわかって、お父さんが亡くなって、で、札幌から戻ったら、アンタに逢おうと思ってた。

平尾　ちょっ、ちょっと待って！　じゃあ、実穂の娘と孫って？

五月　（答えずに）そしたら、小夜の相手がアンタだって言うじゃない！

平尾　（狼狽して）ま、まさか！　それじゃあ…

五月　ウチの大事な大事な小夜をどうしようっての？

平尾　ちょっと待って！　君は、俺の、俺の娘なのか？

五月　母さんとは音信不通だそうだから、知らないかもしれないけど、なんならDNA鑑定でもなんでもして あげる。信じられない？

平尾　…（気持ちを落ち着けて）いや、信じるよ。

五月　え？

平尾　さっき、実穂から電話があった。俺たちの娘の名前は五月だと教わった。

五月　母さんから？

平尾　ああ…。そうか、君が俺の娘か。そうか。なんだか

か不思議な気分だな。

平尾は静かに頭を下げる。

平尾　済まなかった。謝る。

五月　え？

平尾　俺のせいで、先輩：倉枕先輩とは、うまくいかなかったんだってね。済まない。今更だけど謝る。

五月　そんなこと言われても。

平尾　ほんとに済まなかった。

平尾がゆっくりと頭を上げる。

五月　なんか、怒りが失せちゃった。帰るね。とにかく小夜と別れて。今はそれだけ。

平尾　わかったから、ちょっと待ってくれ。

五月　帰る。

平尾　そうか、じゃあ、札幌から戻ってきたら連絡をくれ。

五月　ええ、するわ。言いたいことも一杯あるし。

五月は立ち上がり、ドアを向くとそのまま玄関に向かうが、立ち止まり、振り返る。

五月　やっぱり、ちゃんと名前で呼んで。アンタのことは嫌いだけど、それでも名前で呼んで欲しい。きっと、母さんもそう言ったでしょ。女は名前で呼ばれないと男と向き合ったことにならないって。

アンタには私と向き合う義務があるし、あたしにもきっとある。呼び捨てでも許すから、名前で呼んで。

平尾　え…

五月　わかったよ、五月、でいいんだね？

五月、うなづく。堅かった表情が微妙に緩む。

それからさっと前を向き、玄関に進む。

玄関が開き、閉じる音がする。

平尾はぐったりと椅子に沈み、携帯電話を持ち、少し考えてからリダイヤルを押す。

平尾　次藤、今いいか？

次藤　ああ、実穂はどうだった？懐かしかったかーい（酔っている）。

平尾　今、ちょっと、話していいか。

次藤　もちろん。電話くれるかなと、思ってたし。

平尾　大変なことになった。聞いてくれ。

次藤　なんだ？（酔いが覚める）

平尾　さっき、五月が来た。

次藤　え？

平尾　俺と実穂の娘だ。初めて逢った。

次藤　おお！　それじゃあ…

平尾　（さえぎるように）先輩が倒れたと聞いて。俺のことを調べたらしい。

次藤　良かった、んだよな？

平尾　それどころじゃなかった。

次藤　何があったの？

平尾　実は今付き合っている子がな、

次藤　女？男？

平尾　女だ。ハタチ過ぎの。

次藤　若いな…。惚れてるの？

平尾　ああ。50過ぎたせいかな、これほど優しい子には、もう2度と出会えないんじゃないかと思うようになった。俺とした、ことが、この子と逢えない日は寂しくて、何かあったんじゃないかと不安で仕方がない。

次藤　笑ってくれ。

平尾　笑わないよ。

次藤　おい、…

平尾　そう、だったら、俺の孫ということになる。遥かに年下の女の子に夢中になってたら、実は孫だったと いうオチだ。

次藤　間違いないの？

平尾　ああ、さっき腑に落ちたよ。俺がその子にハマった理由も。

次藤　実穂に似てるのかい？

平尾　いや、まったく似てないと思う。まあ、今の実穂の顔はわからないけど。

次藤　じゃあ？

平尾　口癖だよ。口癖が似てるんだよ。俺もボケが始まってるのかな。今日やっと気づいたよ。

お前さ、実穂に言われたことないか、名前で呼んで

って。

次藤　え？

平尾　呼び捨てでいいからって。

次藤　覚えがないなあ。平尾だけじゃないの？

ちょっと

妬けるな。

平尾　ごめん。

次藤　まあ、いいけど。

平尾　実はさ。今日、名前で呼んでって、その子に言われて、次に実穂に言われてさ、最後に五月にも言われたよ。

次藤　そういうことか。

平尾　あ、それで気づいた。五月が家出したせいで、実穂とその子は逢ったことがないんだけど、実穂から五月へ、五月からその子へと伝わったのなら納得できる。きっと、これ以外にも、五月を介して実穂から伝わった何かに俺はハマったんだと思う。

次藤　そうか…、その子とは既に？

平尾　あ、男と女だ。しかも、今日、生理が遅れてると言われたよ。

次藤　ま、まさか…、でも、平尾ってたしか。

平尾　あ、あれからずっと避妊してきた。怖いんだよ、冷汗が出るほど。今日は安全日なのよと女に言われると勃たないくらい。

次藤　なら、なぜ？

平尾　襲われたらしい。37年前には実穂に、そして今度は孫に襲われるなんて、これが俺の性かよ？

次藤　しかし、…

平尾　そうだよ、もしもできてたら子供は…、

次藤　あ…（息をのむ）

平尾　俺の子で、しかも、俺のひ孫なんだよ！

沈黙

次藤　ごめん、何を言えばよいのかわからない。

平尾　笑ってくれ。

次藤　笑えないよ。

平尾　帰ってきたのかな。ごめん、また電話する。

次藤　ああ、いつでもいい。いつでも。とにかく、考えす

平尾　ぎないでね。

平尾　ありがとう。ホントに。

平尾が終話ボタンを押すと、小夜が部屋に入ってくる。

小夜　ママが帰ってきたので、ちゃちゃっと横をすり抜け

て、ママの乗ってたタクシーに乗ってきちゃった。

ママ怒ってた？

平尾　ああ…。小夜、ここに座ってくれ。話がある。

小夜　何？（平尾の向いの椅子に座る）

あ、あたし札幌行くのやめちゃった。

平尾　おい、それはダメだろ！

小夜　いいのいいの、で、話って？

平尾　あ、ああ、言いづらいことなんだが、隠すことはで

きないから、言うぞ。

小夜　うん。

平尾　小夜のママは俺の娘だ。

小夜　え？　ごめん、もっかい言って。

平尾　小夜のママの五月の父親は俺だ。俺が16の頃、札

幌に居る実穂、小夜のおばあちゃんに俺が産ませた

子が五月なんだよ。

小夜　そんなことって…。

平尾　ごめん。大変なことをしてしまった。

小夜　（明るく）すっごーーーい！

平尾　はあ？

小夜　世の中ってせまいんだねー。ママのホントのお父さ

んが部長だなんてー。そんなことアリなの？

すっごーい！

あ、そっか、ママが探してたホントのお父さんって

部長だったんだ。だから、部長の住所をママが知っ

てたんだね。謎が解けたー！まさか、こんな、近く

平尾（さえぎって）おい！

小夜え？

平尾問題はそこじゃないだろ！

小夜何が？

平尾（早口に）俺は小夜という孫とできてしまった。もし、俺たちの間に子供ができてたら、俺の子で、しかも、俺のひ孫なんだぞ！

小夜え、なんのこと？

平尾（けろっと）あ、それは大丈夫。うん。

平尾え？

小夜アパートでママの帰り待ってたら、生理来ちゃった。それにね。

平尾そうか、ふう。そ、それに？

小夜あたし、部長の孫じゃないもん。お父さんの連れ子だから。だから鈴木って苗字なの。ママと美雪（みゆき）は倉

平尾枕。おい……。

平尾は開いた口が塞がらない。小夜は元気一杯で。

小夜だ・か・ら、あたしと部長は血のつながりゼロ。大丈夫。安心して。

美雪はあたしと同い年でママの連れ子。お父さんとママはバツイチ・コブイチどうしの再婚。でも、先月離婚しちゃったんだって。だから、札幌へはママと美雪で行けばいいの。あたしも行きたかったけどね。ママのお母さんに逢ってみたかったし。

平尾そ、そうか……

小夜ママは離婚したけど、美雪とあたしのどっちも自分の娘だって言ってくれて、嬉しいけど、時々うざったいのよね。もう大人なのに。

平尾そ、そうだな……

小夜あたしが部長を好きになったことも、ちゃんと理由があったんだね。きっと、ママのお母さんからママに伝わった何かが、ママから私に伝わったんじゃないかなぁ。オヤジマニアのあたしだって、誰でも良

平尾　いってわけじゃないから。

小夜　俺も小夜が好きになった理由が一つ分かったよ。

平尾　へへへ。なんか照れるね。急に嬉しくなってきちゃった、あれれ…（涙をぬぐう）

小夜　おお。「鉄壁の鈴木」と言われる小夜が泣くなんて、総務の連中が知ったらビックリするだろね。

小夜　ひっどーい。あたしだって泣くことあるよ。会社じゃ誰にも負けたくないだけ。

平尾　ごめんごめん。

小夜　あ、そっか、美雪は部長の孫なんだね、なんかいいなー。美雪もオヤジマニアだから、部長に逢ったらきっと喜ぶよー。あ、でも、まあ、部長がママのホントのお父さんなんだから…

平尾　ん？

小夜　あたしも部長をおじーちゃーんって呼んでいい？

平尾　それだけはダメ。

暗転・幕